【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	鹿児島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	東町立川床小学校								
学　年	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	１	１	１	１	０	６	１１
児童数	２０	１９	１８	１９	２０	１３	０	１０９	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

児童一人一人に「確かな学力」を身に付けさせるための
指導方法・指導体制の改善
～　小規模校の特色を生かした算数科の指導を中心に　～

２．研究内容と方法

（１）　実施学年・教科

全学年・算数
教科の特性上，積み上げが必要であり，児童の習熟の差が著しいため

（２）　年次ごとの計画

平成14年度

○　テーマ

児童一人一人に「確かな学力」を身に付けさせるための
指導方法・指導体制の改善
～　小規模校の特色を生かした算数科の指導を中心に　～

○　仮説

①　課題把握の場，授業の山場，見届け・確かめの場をおさえた指導をするならば，分かる授業を展開でき，児童一人一人の確かな学力が定着していくのではないか。

②　教員の得意分野を生かした一部教科担任制等，複数教員による指導を導入するならば，児童一人一人のよさを多面的にとらえた指導が可能ではないか。

③　複式学習指導におけるガイド学習を導入するならば，児童一人一人の個性を伸ばし，個に応じた個別指導が可能ではないか。

○　研究内容・方法

ア　授業の３ポイント：全学年

・　課題把握の場における工夫として，プレテストの実施，日常生活に関連した課題提示の工夫，めあて黒板を活用した課題の焦点化の工夫を行った。

・　授業の山場における工夫として，相互解決を図るための学習形態の工夫，個性の伸長を図り，個に応じた指導のためのガイド学習の導入，ホワイトボードによる「練り合い」の工夫などを行った。

・　確かめ・見届けの場における工夫として，終末段階での練習問題をポストテストと位置付け，学習内容の定着を把握し，ガイド学習により個別指導の時間を確保し，「確かな学力」定着のための工夫を行った。

イ　一部教科担任制：第５学年及び第６学年（国語，算数，理科，音楽，家庭，図工）

・　４人の教員が得意な教科・領域を生かし，系統的・専門的な教材研究を効率的に行い，児童にとって「よりわかる授業」「より楽しい授業」を

平成14年度	展開した。 ・　児童を複数の教員が指導することで，担任一人では気付かなかった児童のよさや持ち味，そしてつまずきを明らかにするとともに，協力体制の中で児童をより多面的に見守った。 ・　児童の発達段階を考慮して高学年で実施することにより，中学校での学習に戸惑いをなくし，スムーズに順応できるようにした。 ウ　ティームティーチング：第５学年及び第６学年（算数科） ・　教科担任とフロンティア加配によるＴＴを週あたり３時間設定し，個に応じた指導の充実を図った。 ・　４年生以下は，担任の要請によって，空き時間の教師とのＴＴを実施した。 ・　教科の特性上，積み上げが必要であり，個人差も著しい。また，標準学力検査等での落ち込みも見られ，高学年では内容も多岐にわたることから，指導の充実のために行った。 エ　ガイド学習：全学年（算数科を中心に） ・　複式学級の学習で用いられるガイド学習を単式学級に用いることで，ガイド役の児童の個性を発揮させ，発展的学力の育成を図るとともに，ガイドが学習をリードする間，教師は個別指導の時間を確保し，机間指導を行い，つまずいている子に対応した。 ・　子供たちに求められている「生きる力」を身に付けさせるために，教師が「教える」教育から，児童が「学び取る」教育へ転換し，自己教育力を高める必要があった。 オ　学力向上委員会の設置 ・　研修係を中心にした４名の教員で「確かな学力」向上のための構想づくり，研究の進め方等の方針について協議した。 カ　基礎学力向上 ・　学力強化月間を学期１回設定し，計画的な複数教員による指導（１学年に４名の教員を配置）を行った。 ・　毎週月曜日の帰りの会に「百ます計算」の時間を位置付け，全学年で取組んだ。

平成15年度	○　テーマ 児童一人一人に「確かな学力」を身に付けさせるための 指導方法・指導体制の改善 ～　小規模校の**特色**を生かした算数科の指導を中心に　～ ※　「特性」→「特色」　より適切な表現に変更。 ○　仮説 ①　課題把握の場，授業の山場，見届け・確かめの場をおさえた指導をするならば，分かる授業を展開でき，児童一人一人の確かな学力が定着していくのではないか。 ②　教員の得意分野を生かした一部教科担任制等，複数教員による指導を導入するならば，児童一人一人のよさを多面的にとらえた指導が**できるのではないか**。 ③　複式学習指導におけるガイド学習を**単式学級に**導入・**工夫**するならば，児童一人一人の**主体性**を伸ばし，個に応じた**指導**が**充実するのではないか**。 ※　仮説②　「可能ではないか。」→「できるのではないか。」 仮説③　「単式学級に」，「工夫」，「個性」→「主体性」，「個別指導」→「指導」 「可能ではないか」→「充実するのではないか」　より適切な表現に変更。 ○　研究内容・方法

平成15年度

ア　授業の３ポイント：全学年

イ　一部教科担任制：第５学年及び第６学年（国語，算数，理科，音楽，家庭，図工）

ウ　ティームティーチング：第５学年及び第６学年（算数科）

※　本年度は，第３・４・５・６学年の４学年で実施した。

エ　ガイド学習：全学年（算数科を中心に）

※　本年度は，昨年度の終末段階でのガイド学習を実践で生かし，個別指導に十分活用することができた。さらに，山場でのガイド学習の在り方を研究し，３つにパターン化することができた。

ガイド学習Ａ	ガイドの指示で問題を解いたり，答え合わせをしたりする。学習の手順を身に付けると共に，自主的・共同的な学習集団の基礎を作る。
ガイド学習Ｂ	ガイドの指示に従って話し合いを行い，グループで意見を高めていく。
ガイド学習Ｃ	補充的な学習グループと発展的な学習グループに分かれ，それぞれガイドを立て，既習事項の確実な定着を図ると共に理解を深める。

オ　学力向上委員会の設置

カ　基礎学力向上

キ　アシスタントスケジュール表の活用（教師の空き時間表）

職員室後方にアシスタントスケジュール表を掲示し，他教科におけるＴＴに活用した。

ク　ＡＡＩの分析と活用

ＡＡＩから児童一人一人の学習に影響すると思われる要因を分析し，その結果を教育相談に活用した。

平成16年度

○　テーマ

児童一人一人に「確かな学力」を身に付けさせるための
指導方法・指導体制の改善
～　小規模校の特色を生かした算数科の指導を中心に　～

○　仮説

①　課題把握の場，授業の山場，見届け・確かめの場をおさえた指導をするならば，分かる授業を展開でき，児童一人一人の確かな学力が定着していくのではないか。

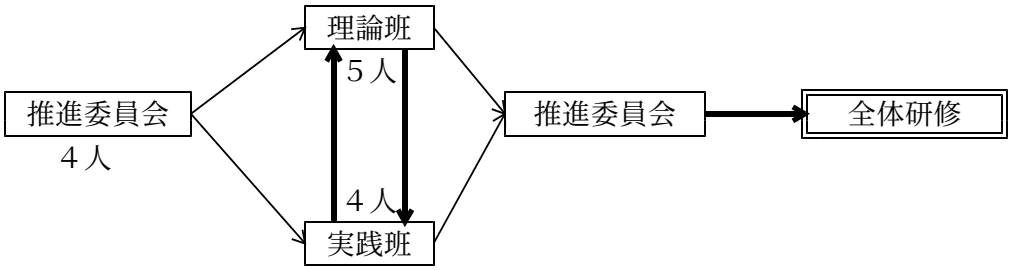
②　教員の得意分野を生かした一部教科担任制等，複数教員による指導を導入するならば，児童一人一人のよさを多面的にとらえた指導ができるのではないか。

③　複式学習指導におけるガイド学習を単式学級に導入・工夫するならば，児童一人一人の主体性を伸ばし，個に応じた指導が充実するのではないか。

○　研究内容・方法

・　ガイド学習の３パターンの実践・研究
・　ＡＡＩのさらなる活用
・　複数教員による指導のさらなる充実
・　学力強化月間における家庭との連携強化
・　「算数科の評価規準を基にした評価の在り方」と「児童の自己評価の在り方」との教師・児童双方向からの評価に関する研究・実践
・　児童の変容の把握
・　波及効果状況等についての調査
・　実践の継続化に向けた働きかけ
・　フロンティアスクール事業の成果と広報の普及
・　研究成果の明確化

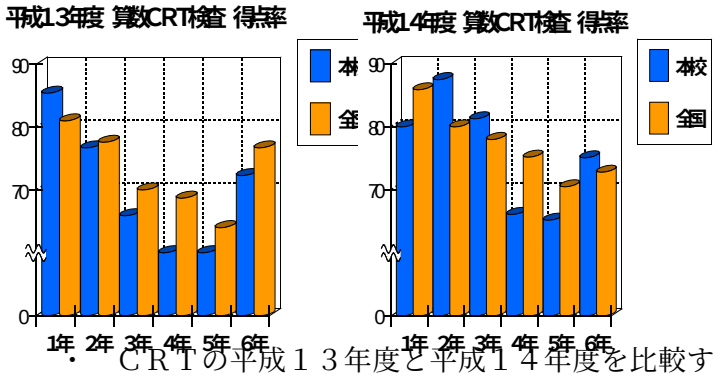
（３）　研究推進体制



※　昨年度の研修反省として，推進委員会の役割が大きすぎたことにより，研修内容が共通理解されなかった。そこで，本年度は，全職員で役割分担ができるように，推進委員会を研究の方向性を示すものとし，理論班・実践班に役割を分担しながら研究を進めた。

Ⅲ　平成15年度の成果及び課題

○　成果



算数科(本校得点率÷全国得点率)からみた伸び

	平成１３年度	平成１４年度
現２年生		0.931
現３年生	1.054	1.093
現４年生	0.988	1.042
現５年生	0.941	0.878
現６年生	0.884	0.924
現中１生	0.862	1.031
現中２生	0.942	

・　ＣＲＴの平成１３年度と平成１４年度を比較するとはっきりとした伸びがみられた。
・　本校なりの単式学級でのガイド学習の３パターンを作成することができた。
・　教科担任制，ＴＴ（アシスタントスケジュール表を使ったＴＴも），学力強化月間等，複数教員で児童を育てる意識が定着してきた。
・　ＡＡＩの実施・分析を行い，多くの場面で活用できることがわかった。
・　研究推進委員会を中心に組織的に研究することができた。

○　課題

・　ガイド学習の３パターンの実践と問題点の改善を図り，主体性のある児童を育てていく。
・　ＡＡＩ活用の共通理解を図り，多様な場面での活用を図っていく。
・　複数教員による指導を一層充実させていく。
・　学力強化月間において家庭とも連携を取り，児童の基礎基本の定着を図っていく。
・　「算数科の評価規準を基にした評価の在り方」と「児童の自己評価の在り方」との教師・児童双方向からの評価に関する研究・実践を進める。
・　フロンティア３年間の児童の変容を把握する。

Ⅳ　学力把握のための学校の取組

○　定期的な学力検査の実施と分析（年２回，学年当初にＮＲＴ，学年末にＣＲＴ）
○　学期ごとにスモールステップにもとづく学力強化月間の実施
○　個人カルテの充実

Ⅴ　フロンティアスクールとしての成果の普及について

○　平成14年度　自主公開

・　日　時　　平成15年2月20日(木)

・　場　所　　東町立川床小学校（第３学年・第５学年）

・　対　象　　出水地区

○　平成15年度　中間発表公開

・　日　時　　平成16年1月28日（水）

・　場　所　　東町立川床小学校（第２学年・第６学年）

・　対　象　　出水地区

○　平成16年度　研究公開

・　日　時　　平成16年の11月頃

・　場　所　　未定

・　対　象　　鹿児島県下

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　■　１４年度からの継続校

【学校規模】　■　６学級以下　□　７～１２学級
□　１３～１８学級　□　１９～２４学級
□　２５学級以上

【指導体制】　□　少人数指導　■　Ｔ．Ｔによる指導
■　一部教科担任制　□　その他

【研究教科】　□ 国語　□　社会　■ 算数　□ 理科
□ 生活　□　音楽　□ 図画工作　□ 家庭
□ 体育　□　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■ 有　□ 無